

国 語 科

主任：大塚 仁史

(1) 今年度の目標

- ① 論理的な思考能力の向上。
- ② より豊かな人間性を培うために感受性を磨く。
- ③ 古典読解力の向上。
- ④ 読書指導の強化。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 学習意欲を向上させるための指導を工夫する。
ア ス文土曜塾において、学年を追って難解な評論の記述問題に取り組ませる。
イ 評論文を要約させることを繰り返すことにより、論理的な思考を善成する。
- ② 基礎力テストにより古典読解力を養う。
- ③ 一年生では基礎力テストにて、動詞→形容詞・形容動詞→助動詞という段階を踏むことによって、日本語における文末表現の微妙な差異に気づかせ、現代語訳を注意深く行うことの重要性に気づかせる。
- ④ 生徒が書物に触れる機会を増やす。

(3) 授業アンケートの結果と分析

授業の進度は、速いという意見が多いことも予想されたが、適切であると答えた生徒が多く(1年現文88.7%古典80.1%、2年現文95.5%、古典82.0%)、全体的にはよい評価を受けている。昨年度までと同様に、1年生の古典がやや2極化していて、授業進度が速いと感じている生徒が14.7%・39名いる。ただしそのうち27名(69.2%)が「予習をなにもしない」と解答しており(全体では69名26.5%)、予習復習などの家庭学習を行う意欲を高める授業を充実させる必要が感じられる。授業内容については、概ね良い評価を受けている。特に、「授業の理解度」という設問に対しては、多くの生徒(1年現文92.2%、古典90.6%、2年現文93.6%、古典93.9%)、から「よくわかる」「だいたいわかる」の肯定的な評価を受けている。

2年古典の「予習」については、昨年度や1学期末に比べ、2学期末の調査結果では増加している。特に「何もしない」者が13.6%まで減り、「わからない単語を辞書を引いて調べる」「自力で現代語訳を試みる」者は52.3%まで増加した。

1年古典の「予習」についても、昨年度や1学期末に比べ、2学期末の調査結果で増加している。特に「何もしない」者が26.5%まで減り、「わからない単語を辞書を引いて調べる」「自力で現代語訳を試みる」者は36.3%まで増加した。ただし、別に「文法事項を調べる」者が17.7%おり、学習段階からすれば自力での現代語訳は未だ難度が高いため、学年進行により「自力で現代語訳を試みる」層の育成が期待される。1年生はオリエンテーションなどを通して予習・復習の方法を説明しているが、適宜「予習」、「復習」の大切さを話していきたい。自ら学ぶ姿勢を育むためにも、さらなる継続的な指導が必要かと思われる。

2年は、「予習」が昨年度より増加しているものの、低水準である。授業を理解し、実力をつけるためにも、さらに指導していきたい。「復習」は昨年比較でかなり増加していて、この調子で頑張らせたい。

授業に対する希望では、どの学年も「特に何もなくて今のままでよい」が多かった(1年現文88.6%、古典65.6%、2年現文95.5%、古典81.2%)。1年古典で「もっとゆっくり丁寧に説明してほしい」が31人(12.3%)出ているが、そのうち「(予習を)何もしない」が19人(61.3%)いるため、予習を促すことで理解度が上がることが期待できる。

(4) 今年度の成果と課題

古典においては古文では古典文法、漢文においては句法が重要である。さまざまな場面でその大切さを根気強く話し、具体的な指導必要性が感じられる。その手段として基礎力テストを行っている。全員が合格するまで粘り強い指導を貫くことで、1年で84.5%、2年で89.7%の生徒が、テストを機会に

真面目に取り組んだと答えている。「十分に(基礎力テストに)取り組めなかった」と答えた生徒で、授業内容が「よくわかる」と答えることができた者は、1年で27名中3名、2年で26名中1名にすぎない。逆に「十分に(基礎力テストに)取り組んだ」中で「だいたいわかる」者は1年で229名中212名、2年で234名中220名となっている。また、3年生の自由記述(1・2年生に伝えたいこと)では、「基礎力テストの内容を1・2年の間にしておくことが意味がある。受験直前になって詰め込んで効果があるものではなく、基礎力をつけた上で自力で古典に取り組むことで力が上がる」という趣旨の記述をした者が多数いた。生徒もまた基礎力テストを機会とした学習により、古典読解力を身につけていることがうかがわれる。

斯文土曜塾の登録制講座において、参加者は発展的な内容に、意欲的に取り組んでいた。参加していない生徒へ参加を促すことが必要である。

学力テストでは、年度当初にテスト範囲を周知し、1年はチャートを中心に、2年後半では問題集を学習させ、基礎的な内容とともに発展的な内容に取り組ませたが、全員の生徒に、十分に組み込めることができなかった。特に1年生古典で得点率の二極化が激しい。授業でもチャートの内容を取り扱ったりするなどして、テストの直前だけでなく、普段からチャートを学習できるよう指導する必要があるかもしれない。

読書指導に関しては、夏休みに「読書感想文」を、また、春・夏・冬の長期休業中には「読書の記録」を課題に設定することで、生徒に読書の機会を持たせている。また、授業でも折に触れ、課題探求型の授業を実施し、その際図書室を利用した。教科書で学習した評論を、図書室で購入してもらったりなど、図書室とも連携して読書指導を行っている。さらに、昼の読書週間の実施など、教育研究部と提携した取り組みもあり、さらに読書に親しむ層の増加を見込んでいる。

教員間で、お互いの取り組みや生徒の現状について情報交換を図り、より有効な指導方法を工夫することも必要である。そのためには統一して情報交換を行う場・時間の設定が求められる。